2026 年 11 月 2 日
株式会社 SCREEN ホールディングス
グローバルコミュニケーション戦略本部　IR 室

2027 年 3 月期　第 2 四半期　決算関連 Q&A

決算説明会 Q&A		
Q1	SPE	・CY2027 の WFE 市場が 30%程度成長すると予想され、メモリーの成長性が強いとされる中、御社が WFE と同等以上の成長を実現するためのドライバーは何か？ ・また、地域ミックスの影響はあるか？
A1		・HBM などの高機能メモリーへのエクスポージャーの高まりや、先端ロジックにおけるデバイスの高集積化、パッケージングをはじめとする先端技術への対応機会の増加が成長ドライバーとなる。 ・地域ミックスの影響というよりは、どのデバイス（アプリケーション）が必要とされるかによる影響のほうが大きいだろう。
Q2	全社	現行の中期経営計画が今期末で終了し、次期中計が発表される予定だが、上期を終え、（今後の）方向性に変化は出てきているか？また、（新たな）投資や株主還元方針へのヒントがあれば教えて欲しい。
A2		現在、次期中期経営計画の骨子が固まり、具体的な施策を策定中である。従来、次期中計は「（成果の）刈り取りフェーズ」としてきたが、当初予想していた規模を上回る半導体需要を鑑み、次期中計も引き続き投資フェーズとなる可能性あり。必要な成長投資や開発投資をベースに置きつつ、還元方針についても考えたい。
Q3	SPE	足元の受注が過去最高レベルにあり、WFE 見通しも（上向きに）見直されている中、今期通期売上目標が据え置かれている理由は？キャパシティの考え方や来期への影響を含めて教えて欲しい。
A3		現在、彦根（事業所）で製造現場の再編整備を進めている。今期下期の売上計画として WFE の伸び＋α分を狙える引き合いを得ているが、実際の売上となっていくのは今期後半から徐々に上がり、来期に本格化するだろう。
Q4	全社	次期中計に向けた事業ポートフォリオの再編に関して、エレクトロニクス関連事業の再編や（印刷関連の）GA 事業の中長期的な成長シナリオをどのように描いているか？
A4		効率的な資源配分やキャッシュアロケーションに向けて事業ポートフォリオ再編の具体策に着手している。エレクトロニクス領域と印刷関連の GA 事業は業態や成長性が異なるため、それぞれについて、来年 3 月末に予定している IR Day で基本方針をお話ししたい（詳細発表は 5 月の本決算時を想定）。
Q5	SPE	2Q 売上実績でファウンドリー向けが下振れている背景は何か？また、通期計画におけるファウンドリー向けの動向を教えて欲しい。
A5		2Q 実績の計画比下振れは、装置の据え付け完了タイミングによる売上計上時期のずれが要因。先端ロジックやファウンドリー向けには引き続き強い引き合いがあり、四半期ごとに波はあるものの、先端ロジック、ファウンドリー、メモリーが市場を牽引する構造に変化はない。
Q6	SPE	通期計画でみても若干弱い印象があるが、逆に来期以降に業績が大きく伸びると理解してよいか？

A6		その理解で差し支えない。
Q7	SPE	製品のリードタイムや、部材・部品の調達状況はどうなっているか？
A7		・装置のリードタイムは製品によって異なるが平均して約 4～5 カ月。 ・部材調達に関して今期分はほぼ目処が立っている。ただ制御基板用デバイスなど入手難も出ており、来期以降の増産分についても、調達部門が確保に取り組んでいる。コロナ禍のような供給不足にならぬよう対応を進めている。
Q8	SPE	足元の部材調達状況を鑑み、来期は何%程度の増産・拡大まで対応可能か？
A8		具体的な数値は公表できないが、見込んでいる来期の市場の伸び率に追随、あるいはそれを少し上回る程度の増産ができるよう手だてを打っていく。
Q9	SPE	2Q で売り上がった（前期からの）スライド案件について、売上規模は約 200 億円という理解でよいか？また、営業利益率はどの程度か？
A9		・規模はその認識で問題ない。 ・利益率はほぼ（現状の）平均的なもの。
Q10	SPE	下期売上予想について、3Q と 4Q のバランスは？また、営業利益率の達成見通しは？
A10		・3Q より 4Q の方がやや多くなる構成だろう（４対６程度）。 ・想定している営業利益率は達成難しいものではなく、売上高（SPE 下期で 3,600 億円）を確保できれば可能なレベル。
Q11	SPE	検収基準での売上計上が業績上不利になる点が指摘されているが、売上計上基準の変更に関する議論や今後の対応方針を教えて欲しい。
A11		売上計上基準は、正しくは「据付完了基準」であり、出荷後に顧客の工場で装置が立ち上がったタイミングで売上を計上している。現時点で基準変更を決めているわけではないが、周りの環境変化に合わせて何が適切か、常に監査法人と協議を進めている。
Q12	SPE	（前期からの）スライド案件の売上を除いた今年度の売上伸び率が WFE の伸びを下回っているように見えるが、その要因について教えて欲しい。
A12		当期の製造分が当期に売上計上するだけでなく、期をまたぐ案件があり、表面的にはそう見える場合がある。しかしポテンシャルは WFE の伸び率を上回る需要（受注）があり、来期以降にその成果（売上）を実際のデータや結果として示したい。
関連 FAQ		
Q13	GA	今期の業績見通し、足元の状況は？
A13		・米国の商業印刷は、オフセット印刷からデジタルへの移行が急速に進んでおり、装置売上が堅調に推移、増収を目指す。 ・特に米国では装置の稼働率が上昇、リカーリングビジネス・インク販売を推進し、収益力の強化を狙う。
Q14	FT	今期の業績見通し、足元の状況は？
A14		・一部装置の来期へのスライドとアドバンスドパッケージ事業との（2026 年 4 月の）統合影響により、7 月業績予想対比、売上高、営業利益ともに見直し、下方修正（7月予想対比：売上高▲10 億円、営業利益▲15 億円）。 ➡アドバンスドパッケージ装置の引き合いは強く、来期以降の売上増に期待している。 ・OLED 向け装置販売の推進により安定収益を確保しつつ、アドバンスドパッケージ事業とのシナジーで事業領域拡大と収益力強化を狙う。

Q15	PE	今期の業績見通し、足元の状況は？
A15		・AI サーバー向けの旺盛な設備投資を背景に市況は好転、特に露光装置への強い受注が継続中。上期は赤字が残ったものの、下期に急回復、通期の業績は大きく改善する。 ・下期の売上増に向けて生産体制の強化で、来期以降のシェア拡大を狙う。

HD: ホールディングス、SPE: 半導体製造装置事業、GA: グラフィックアーツ機器事業、
FT: ディスプレー製造装置および成膜装置事業、PE: プリント基板関連機器事業